

「地域福祉を進めるための 高齢者向けSNSアプリによる 地域コミュニティ活性化」

～岩手県滝沢市をモデルにした地域活動の新たな挑戦～



2025.2.
盛岡市
小野 登
090-4934-0765

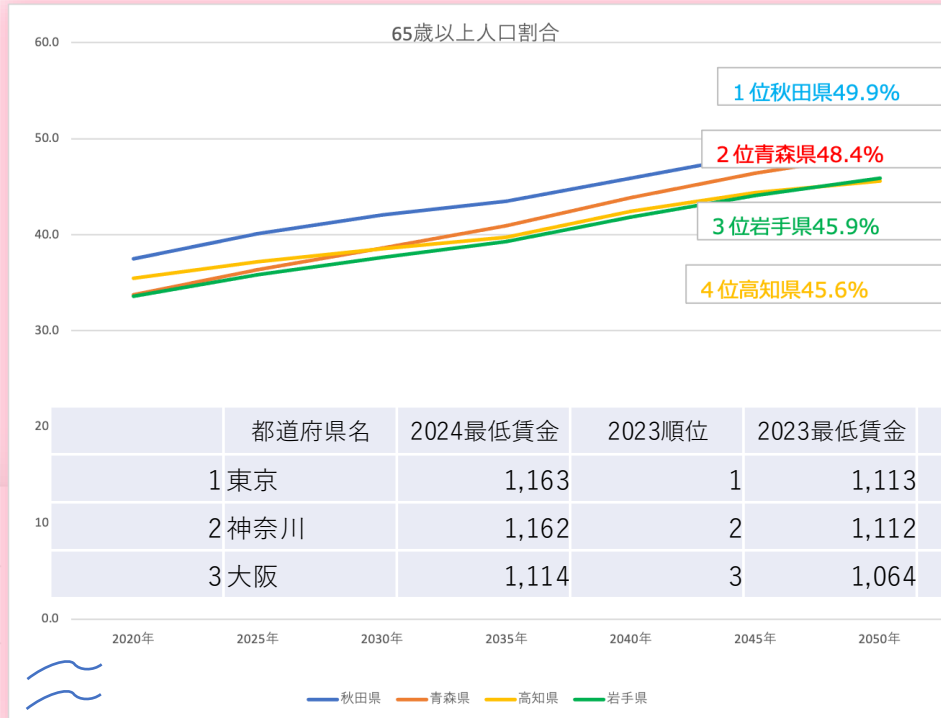
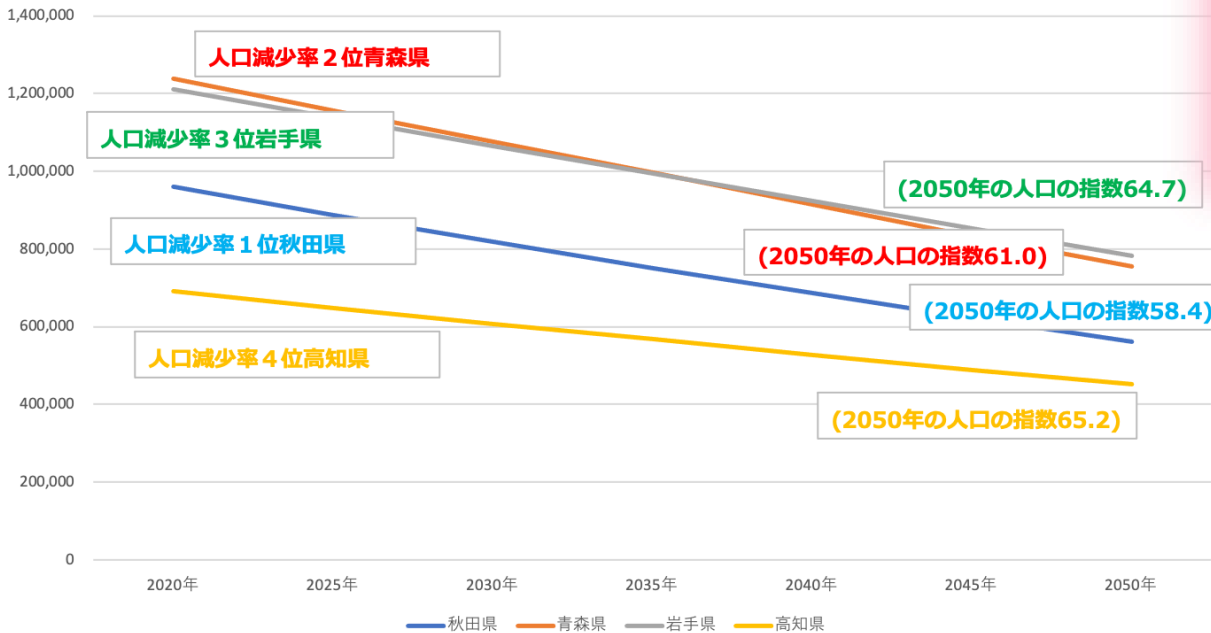
北東北の課題と高齢者の現状

1. 高齢化が顕著
2. 人口減少率も最下群を独占
3. 最低賃金でも下位を占める



住民も自治体も経済悪化

総人口および指数（令和2（2020）年＝100とした場合）



	都道府県名	2024最低賃金	2023順位	2023最低賃金	引上げ額
20	1 東京	1,163	1	1,113	50
10	2 神奈川	1,162	2	1,112	50
	3 大阪	1,114	3	1,064	50

39	青森	953	37	898	55
39	長崎	953	37	898	55
39	鹿児島	953	40	897	56
42	熊本	952	37	898	54
42	高知	952	40	897	55
42	宮崎	952	40	897	55
42	沖縄	952	45	896	56
42	岩手	952	47	893	59
47	秋田	951	40	897	54

高齢者向けSNSを活用した地域活性化

高齢者が使いやすいデザイン

提案するスマホアプリの概要

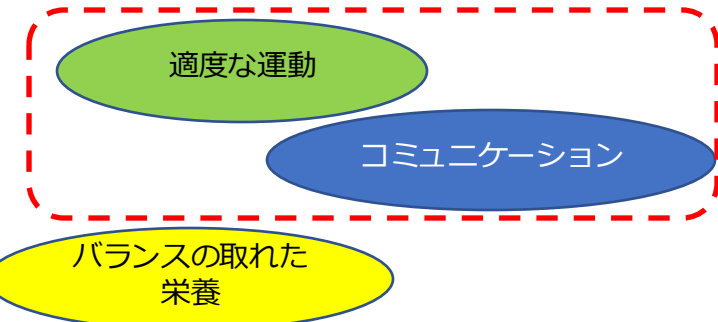
- チャット（音声・テキスト）、グループチャット
- スケジュール管理機能（イベント参加等）
- テキスト・写真投稿機能
- 見守り情報の収集・通知・共有 etc.

期待する効果

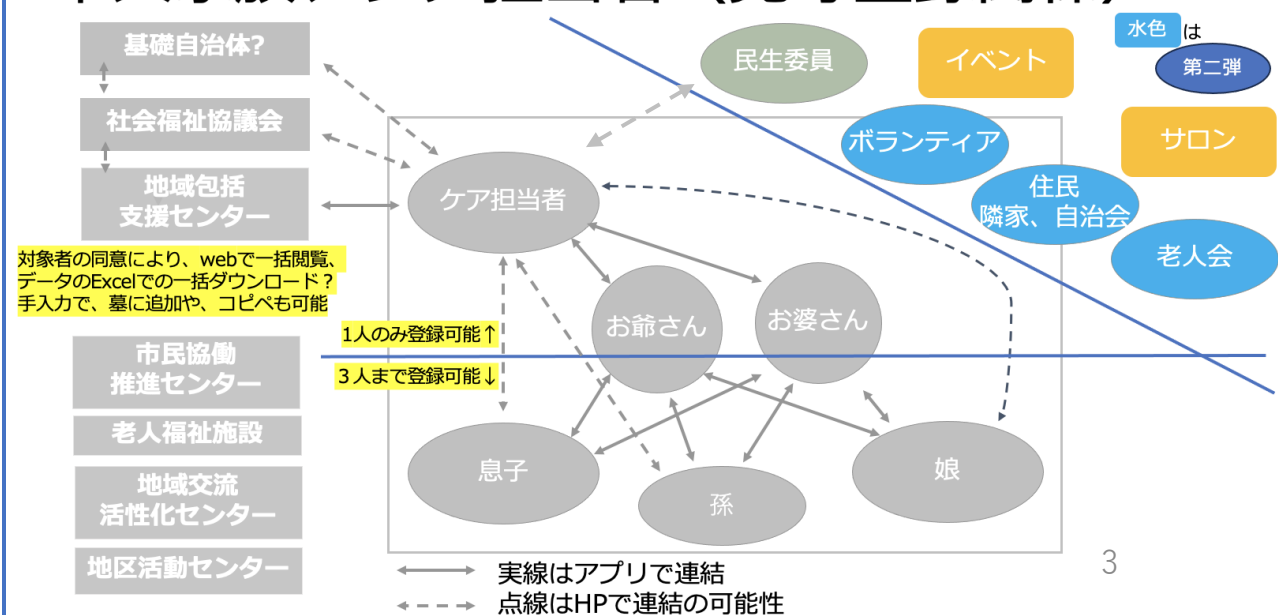
フレイル予防：

「他者とのコミュニケーション」→「適度な運動」

地域コミュニティの活性化



本人家族、ケア担当者（見守登録関係）



滝沢市における試験運用モデル

モデル：

1. 岩手県立大学生 × 高齢者からスタート
2. 最初は、デモ版でのテキストでの対話からスタートし、アプリの使い勝手等を確認。
3. 実際にケア担当者から“いきいきサロン”などのイベントの企画をアプリからスケジュール機能も使いながら案内、招待、参加申し込み、お知らせメール発信を実践。
4. イベントと一緒に参加して、写真を撮ったりしながら、投稿体験。
5. 現地での見守りは誰が適切かなど聞き取りしながら見守り会員登録方法、彼らが知って欲しい情報、知られたくない情報も聞き取りして、見守りシステムの構築に生かす。

実施内容（例）：

- アプリ対話：スマホの使い方教室、いきいきサロン開催案内からスタート
- グループチャット：ケア担当者、ボランティアも交え、グループ形成
- 参加登録：イベントや教室のスケジュール検索・確認・登録
- 見守り：ケア担当者や家族と連携
- 投稿体験：イベントの写真や感想の共有・「いいね！」機能で若者気分



アプリの主な機能と技術的な特長

主な機能:

- LINEのような対話機能、グループチャット
- 地域活動等のスケジュール管理・イベント招待、参加申込み、リマインドメール
- 社会参加、繋がりを促す投稿機能
- テキスト投稿・写真投稿
- 見守り機能（スマホの充電情報・歩行歩数・位置情報・対話活動状況・心身状態）

技術基盤:

- 多機能ながら、それぞれはシンプル
- イベント等の地域毎検索や通知機能(1km以内、等)

将来的な発展:

- 高齢者の心理的・認知的変化を人工知能で検出

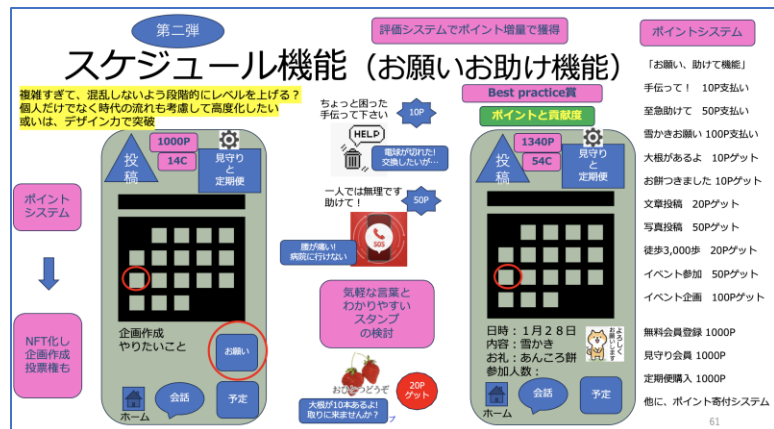
認知症の早期発見に向けたAIの活用 & 「D-walk」 磐井AI(株)
—SOMPOインスティテュートプラス <https://www.sompo-ri.co.jp/2023/01/31/6772/>
全国5,431か所の地域包括支援センターに、有料会員50人を超えた時点で1台設置。

- 地域ボランティア活動の促進（ポイント評価システムの活用・表彰制度）

➤ お願い・お助け機能 **気軽なコミュニティ**

- 位置情報の発信・追跡(LPWA)

- 災害時の被災地でのコミュニティづくり



軽いボランティア

共有することができる見守り要素

①無料で確認見守り無料会員コース

A)スマホの充電状態

B)アプリの使用回数

1.起動回数

2.発信回数

C)歩行歩数



②月額¥300(¥2,800/年間)会員コース

D)スケジュール（本人公表分）

E) 位置情報

2027年4月スタート計画

③月額¥2,000(¥18,000/年間)会員コース

F)メンタル状況、認知症の可能性

人工知能開発状況によりスタート(時期未定)

滝沢市で始める検証活動

◆滝沢市、社会福祉協議会を通じて、できるだけ多くの（10,000人目処）概ね60歳以上の方に、アプリをインストールして頂き、会員登録、②の機能も無料提供して、実効性を確認しながらアプリを修正、改良。

◆高齢化率の違う宮古市でも同様の形式で、少し遅れてテスト実施。

◆2026年4月③a版、2,800円で生涯無料

◆2027年4月③β版、生涯2,800円/年間

◆(他エリアはa版A会員価格、β版半額1年)

◆全体を検証しながら、広汎に使用できるか検討し、全国スタート。

プロジェクトの進め方

第1段階（2025夏休み）：

- 岩手県立大学の協力のもと、モデルケースを試験運用、利用例、マニュアル作成
- 高齢者、ケア担当者からの聞き取り
- データ収集・検証から最終製品の確定

第2段階（2025.10月）：

- 滝沢市の特定地域から、社会福祉協議会と連携してスタート

第3段階（2025年11～2026年3月）：

- 滝沢市全域へ展開、追って宮古市で展開
- 滝沢市と宮古市の例を検証し展開方法確認検討

第4段階（2026年4月～）：

- 盛岡市を皮切りに岩手県全域に展開
- 秋田県、青森県へも展開



A.学生：アルバイトやインターンとして

- 高齢者本人、家族、近隣住民や、社会福祉協議会、地域包括支援センター、社会福祉法人、行政からの聞き取り、アンケート
- サロンや介護予防教室等イベントのサポート、そこでのプロジェクトのプレゼンテーション
- 今回のスマホアプリの使い方教室の講師での指導

B.先生、大学：全般的指導

- プロジェクトの方向性のチェック
- データのまとめ方、内容のチェック
- 各種手法のチェック
- 行政、社会福祉協議会、NPO等への橋渡し

プロジェクトが目指す未来

高齢者の日常の活動から
家族と地域がさりげなく見守り支え合う

- 高齢者の社会的孤立解消、健康寿命の延伸
- 地域の交流活性化と高齢者支援システムの構築
- 地域福祉におけるモデル事例として全国展開の可能性
- 高齢者、家族、地域社会全体の満足度向上
- 社会福祉活動、特に見守りについてデジタルでの情報共有と効率化

ケアスタッフが各方法での”見守り”を一括して捉えるきっかけ
HPからログイン、Excel等にダウンロードした画面イメージ(無料会員登録の場合グラフ無し)

有料会員登録だと、
クリックで
グラフ表示、
ずーと遡れる

お名前	年齢	住所	3日間アプリ 対話利用回数	3日間アプリ 投稿回数	バッテリー 残量	先月平均 走行歩数	今月平均 走行歩数	備考 家族より	備考 ケア担当より
A	65	泉北2-1	7	3	64%	9878	8791		
B	70	泉北2-3	3	1	30%	4356	3487		
C	80	泉北2-5	0	2	27%	2435	1930		元気に体操、少し膝が痛そう、 通院を提案すべきか？
D	75	泉北2-7	13	5	47%	4533	3791		
E	77	泉北2-11	—	—	—	—	—	情報共有したい	最近お出かけが少ない



みちのくの誇りを取り戻したい

平安後期、平泉は京都に次ぐ人口の都市でした。

かつては中央政府に蔑まれ、弾圧を受けながらも誇りを保ち、奥州藤原氏による繁栄を築き、戦乱の犠牲者が敵味方の区別なく浄土に往生できるようにと数々の寺院を建立しました。

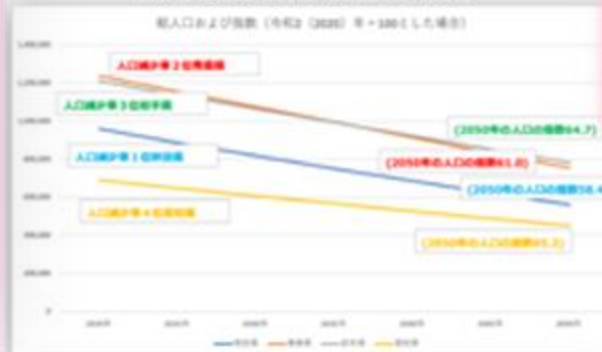
陸奥の地から、日本の抱える社会問題を解決していきたいと思っています。



北東北の課題と高齢者の現状

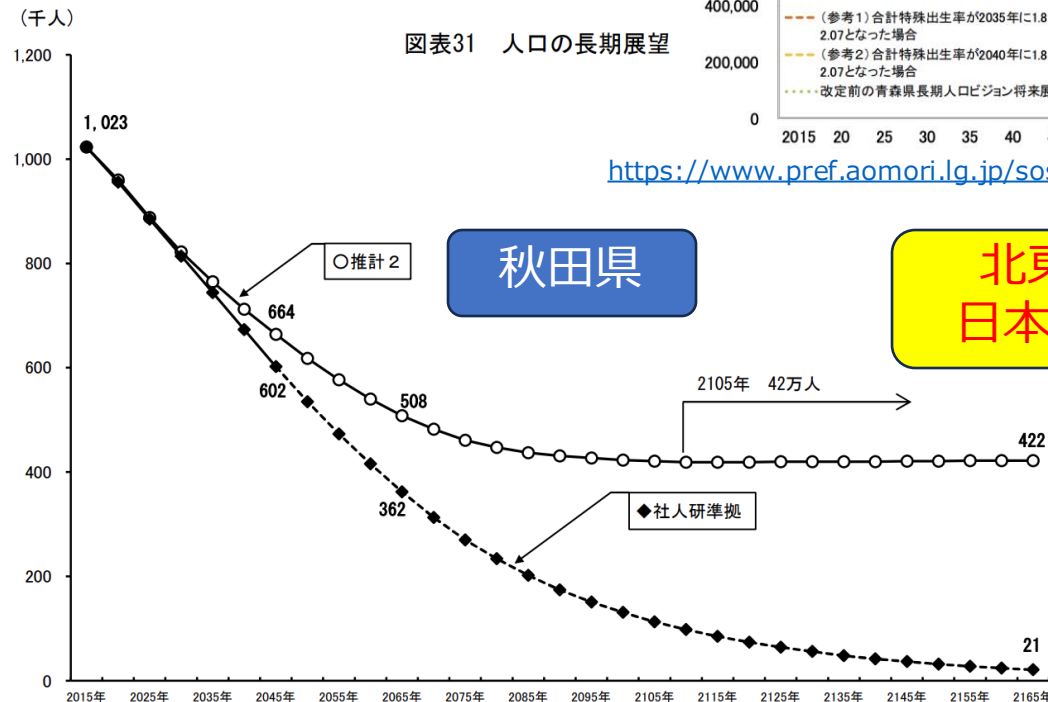
1. 高齢化が顕著
2. 人口減少率も最下群を独占
3. 最低賃金でも下位を占める

住民も自治体も経済悪化

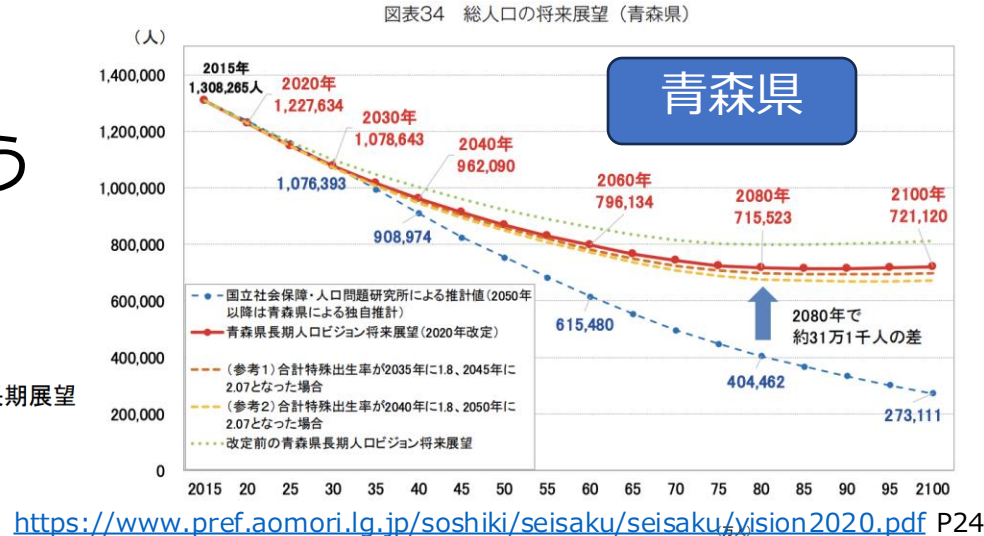


北東北3県の“人口ビジョン”！

- まだ間に合う
- 今すぐ行動

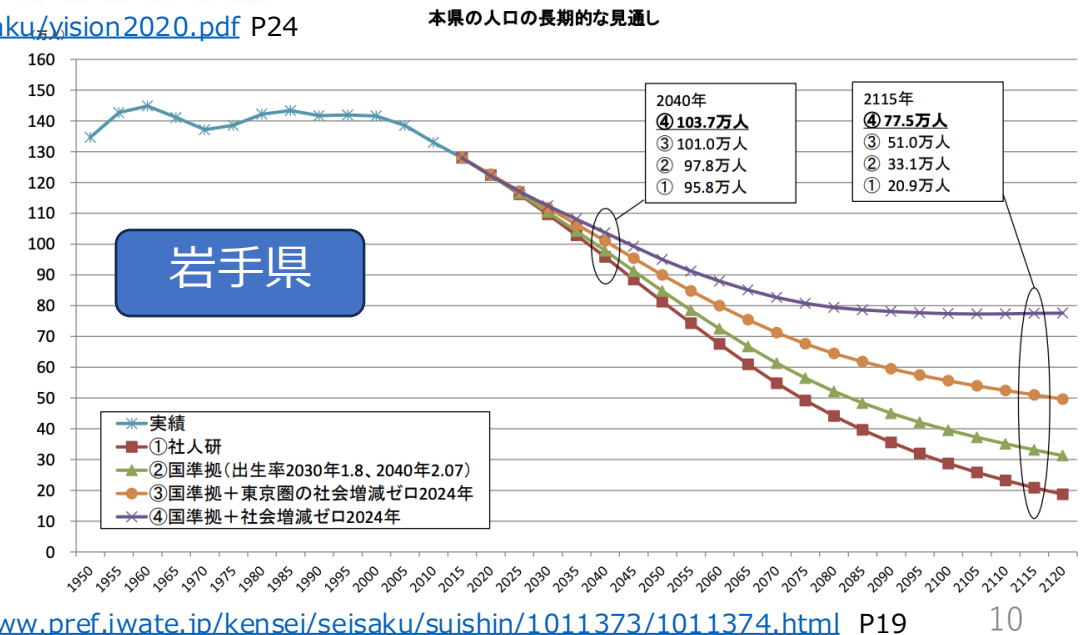


<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/63573> P23



人口の将来展望

青森県：2100年 27,3万人
 秋田県：2165年 2,1万人
 岩手県：2115年 20,9万人
 国立社会保障・人口問題研究所の推計



取り組みにあたりー地域福祉の現状とあり方

岩手県立大学社会福祉学部 佐藤拓郎先生から

滝沢市社会福祉協議会 & 老人会

滝沢市地域包括支援センター

滝沢市 福祉部 自治会 民生委員

岩手県保健福祉部

宮古市社会福祉協議会

宮古市地域包括支援センター

宮古市保健福祉部

盛岡市保健福祉部

先ず滝沢市社会福祉協議会に、6) いわて“おげんき”見守りシステム（電話回線・インターネットによる高齢者見守りシステム）の状況を確認。競合として考えず並行利用で相乗効果を挙げられる可能性を検討いただく。（次年度予算に寄付とチラシで拡散協力依頼）

滝沢市の各部署が高齢者の主に心身の健康状態を

- 個別に把握しようとしているか？あるいはその必要はないと思っているか？あるいはすでに情報を直接持っているか？
- どの程度のレベルで情報を必要と思っているか？例えばどのエリアに何人位、心身のケアが必要な人がいるかの情報。
- どの部署が、あるいは誰がその個々の情報を把握しているかわかるか？どの部署が情報をもつべきだと思うか？
- その情報の保持者が、家族と情報なり見解を共有できていると思うか？保持者本人であれば、共有できていますか？
- その情報は、いくつかの部署がチームとして持ち協力して高齢者をサポートできればいいと思うか？等々…

聞き取り、アンケートの実施、集計